

カナダ研究年報

The Annual Review of Canadian Studies
La revue annuelle d'études canadiennes

第 40 号

2 0 2 0

日本カナダ学会

The Japanese Association for Canadian Studies
L'Association japonaise d'études canadiennes

目 次

<論文>

- 20 世紀前半のカナダ平原諸州における沖縄県出身者の移住過程
..... 花 木 宏 直 1
- 19 世紀後半オンタリオ州立「精神遅滞」者施設の役割と実際
ー同州報告書の分析ー 下 司 優 里 18

<書評>

- 田林 明 編著『カナダにおける都市ー農村共生システム
ー農村空間の商品化と地域振興ー』（農林統計出版、2020 年）
..... 藤 田 直 晴 36
- ルース・アビィ 著、梅川佳子 訳『チャールズ・テイラーの思想』
（名古屋大学出版会、2019 年）..... 丹 羽 卓 41
- 長谷川瑞穂『先住・少数民族の言語保持と教育
ーカナダ・イヌイットの現実と未来』（明石書店、2019 年）..... 岸 上 伸 啓 46
- 和泉真澄『日系カナダ人の移動と運動ー知られざる
日本人の越境生活史ー』（小鳥遊書房、2020 年）..... 下 村 雄 紀 51
- 水戸考道・大石太郎・大岡栄美 編著『総合研究 カナダ』
（関西学院大学出版会、2020 年）..... 田 中 俊 弘 56
- ### <文献リスト>
- 日本におけるカナダ研究・カナダ関連の近著 61

<書評>

田林明編著『カナダにおける都市—農村共生システム 農村空間の商品化と地域振興』 (農林統計出版、2020年)

藤田 直晴

本書は、平成26～29年度科学研究費助成事業基盤研究(B)(海外学術調査)「カナダにおける農村空間の商品化による都市—農村共生システム構築の実証研究」(研究代表者:田林明、共同研究者:矢ヶ崎典隆、菊地俊夫、仁平尊明、兼子純、トム・ワルデチュック)の成果である。

全体は10章で構成され、第1章「序論:ブリティッシュコロンビア州における農村空間の商品化の展開と都市—農村共生システム」では問題の所在が示される。都市に対して受動的な立場に置かれてきた農村において、近年単なる食料供給の場から脱却し、付加価値のより高い作物栽培、農畜産物加工の推進、自然・環境・歴史・文化など農村の資源を総動員して、都市消費者ニーズに応え、農村に収益をもたらす仕組みを構築する動きが世界的にみられる。このことを著者らは「農村の商品化」と捉え、先進事例としてカナダ・ブリティッシュコロンビア州の特色ある7つの地域を選定し、都市と農村が豊かに共生・共存するシステムについて現地調査により検証する。

第2章「ブリティッシュコロンビア州の農業地域区分」では、「2011年カナダ農業センサス」のうち最も詳細な「センサス統合小統計区」を利用し、39の変数による因子分析とクラスター分析により、(1)ローワーメインランド地域、(2)バンクーバー島南部地域、(3)トンプソン・カリブー地域、(4)オカナガンバレー地域、(5)クートニーとロッキー山脈地域、(6)ノーザンロッキー地域、(7)ピースリバー地域、という7つの特色ある農業地域を抽出し、調査地域の大枠を示す。

続く第3～9章は、概ね上記の農業地域区分によるが、ローワーメインランド地域は第3章「バンクーバー大都市圏における都市農業の発展に伴う農村空間の商品化と都市—農村共生システム」と第4章「フレーザー川下流平野における農村空間の商品化による地域活性化」の2つの章に分けられ、(6)ノーザンロッキー地域が外される。

この州では、バンクーバーの存在が大きく、各地域の農業への影響は大きい。特に、

第3・4章の地域はプレーザー川流域を共に構成しており、バンクーバーとの位置関係が農村の商品化に直接影響する。第3章の調査地であるリッチモンド市には、市域の39%を占め、「農業」生産ゾーンを担う広大な保存農地が存在する。他方で面積的には小さいが、研究のテーマである「農」の消費空間を具現するコミュニティガーデン（以下、市民農園と呼ぶ。）の存在に注目し、テラ・ノバ市民農園及びその関係機関への調査を実施している。市民農園の管理・運営は市委託のNPO団体、会費・寄附による独立採算制を採用、貸農地は高齢者用と一般用があり、共同利用農地や花壇の利用やイベントへの参加もできる。契約は1年で、2回まで更新可能で、大規模市民農園にはクラブハウス、会議室、トイレ・シャワー室・更衣室、キッチン、野外教室が備えられ、利用者は頻繁に訪れ、仲間とのふれあいなどが癒される時間を過ごす。農業指導員の指導の下、特に有機栽培が奨励され、自らが栽培した作物を食する。まさに大都市内における「農」空間の商品化であり、都市と農村を繋ぎ共生させる結び目となっている。

第4章は、バンクーバーから東へ120km、南の国境以北20－30kmの地帯での検証である。この地域の農業は、小規模で自作地が多く、州内で最も生産性の高い地域である。バンクーバーや郊外都市部では野菜とベリー類、その周辺では畜産物が生産される。農業生産者と都市消費者を直接結びつけるシステムとして、ファーム・ダイレクト・マーケティング（農場での直売）が広く行われ、規模によるが、収穫や飲食などレクリエーションも提供される。また都市部を中心にファーマーズ・マーケットが頻繁に開かれ、農産物や加工品など地場産物を直売する。この他、農場が経営するファームストアがあり、近隣の農場や卸業者から仕入れた製品を販売する。この地域には、サークル・ファーム・ツアーという専門の農場やワイナリー、野外市場、魅力的な飲食店や史跡などを地図化し、来訪者の域内回遊を支援する独特の企画があり、新鮮で高品質、安全・安心な有機栽培による農産物や地場産物の生産者と都市消費者を結んでいる。アボッツフォードでのサークルファーム調査で、19施設すべてが農産物のみでなく、娯楽・文化・教育的なサービス提供にも力を入れていること、この地域での農村の商品化が農業関係者のみでなく、観光、マスコミ、自治体、州政府など幅広い支援の下、都市住民の農村での消費を促し、収益向上と安定した農業経営を可能にしていることが明らかにされている。

第5章「バンクーバー島カウティンバレー地域における農資源の活用－ワイナリーを基軸とした都市－農村共生システムの構築－」で扱われる地域は、カナダで唯一の地中海性気候地域で、ブドウ栽培の適地である。かつて林業や放牧業中心の時代に離農離村が進んだが、流入する新規就農者によるブドウ・野菜栽培、ワイナリー、馬の飼育など収益性を重視した経営、彼らの創意工夫により農場・収穫面積の拡大がみられる。彼らにとって農村居住への憧れ、農業に生きがいや癒し、こだわりといった非経済的価値が大切なのである。この地域のワイナリーを軸にした農村空間の商品化をみると、1次単位の小

規模ワイナリーはオンリーワンが多い。ワインツーリズムによる野菜や果樹農場との連携、地域食材を使ったスローフード運動の下、基礎単位を形成している。2次単位は中規模ワイナリーで、1次単位との連携、スローフード運動の集積やワインツーリズムの回遊効果を取り込み、地元レストランとの特約販売により経営を安定化している。3次単位は大規模ワイナリーで、多種多様なブドウ栽培による多様なワインを生産し、農場内ツアで飲む・買う・楽しむなど消費者ニーズをほぼ完結させる。この重層的な連携とファーマーズ・マーケットにより、来訪者の販路の広がりを確保し、地域のブランド力を高めている。

第6～9章は内陸地域の農業地域に関する調査結果である。第6章「オカナガンバレーにおけるワインツーリズムによる農村空間の商品化」は、北米を代表する新興ワイン産地の調査結果である。現在153軒のワイナリーが立地し、ワインツーリズムが盛んである。要因は温暖乾燥気候でブドウ栽培に適していること、発展の原動力は資本・技術・経営者の地域外からの流入、加米自由貿易協定締結による農業の存続危機、州政府による保護・統制や品質管理制度の確立、加えてローカルフード運動、州産ワインへの関心の高まり、ツーリズムを基盤としたワイン産業化などが指摘される。南北140kmにおよぶこの地域を3区分し、各地調査から北部ケローナ地域では、農業従事者のワイナリーへの転換は少なく、新規就農者の貢献が大きいこと、中部ナラマタベンチ地域では、湖の存在もあり、ゆっくりとしたワインツーリズム、スローフード運動との連携、ナラマタベンチワイナリー協会、北部同様に新規流入者の寄与が大きいことが示されている。また、南部オリバー・オソユース地域には、先住民族の広大な特別保留地があり、ワインツーリズムは先住民族開発会社によるリゾート開発の中に併設される大規模ワイナリーが担い、観光客は中国や欧米など世界からとなっている。オカナガンバレーでは発展の中心が北部から南部にシフトしていることも本章で明らかにされた。

第7章「トンブソン・カリブー地域における大規模牧畜農場の再編とそれに伴う農村空間の商品化」が扱うのは、第6章から北方に続く、農業限界地に近い地域である。現地調査は、南部カムループ市とその周辺で行われ、大規模牧畜農場の細分・再編により野菜生産、ブドウ栽培やワイン醸造、高麗人参の導入、乳牛飼養から牛乳や乳製品生産、ホビーファームなど農業の多様化していること、小規模化を有機栽培による安全・安心で付加価値の高い農作物への転換により克服している実態が示される。農地面積や農場数、1農場当たりの規模は統計上変化がみられないが、内実は肉牛生産や酪農の減少と野菜やブドウ栽培の増加が進んでいる。なかには、大規模牧畜農場を購入したインド移民2世がタマネギやジャガイモを慣行圃場から有機圃場に転換し、この地域のローカル性を売りに「オカナガン・グロウン」ブランドでバンクーバーやSafeway、ファーマーズ・マーケットなどで販売している例もある。またピーク時の125軒あった高麗人参は手間、時間、

費用がかかるため、2軒に減少するが、その供給先は世界市場だという。農業限界値に近い農村における創意工夫を明らかにしている。

第8章「クートニー地域における有機農業の発展にみる農村空間の商品化」と第9章「ピースリバー地域における農村空間の商品化」であるが、これらの章が扱うのは、市場から遠く、人口も少なく、農業限界地と言える。第8章の地域は他と隔絶しているが故に、相対的にまとまったローカル市場が形成されている。山間地域であるが、南にあることから、相対的に気候に恵まれ、大規模な牧草栽培と小規模な果樹・野菜やクリスマスツリー用のもみの木の栽培農家がみられる。農家と消費者を結びつける役割を果たしているのが北米最大級の組合員を擁するクートニー Co-op であり、消費者が農産物の予約購入する地域支援型農業(CSA)やファーマーズ・マーケットである。様々な規模の4か所の野菜・ベリー農場と2か所の有機畜産農場を対象に行われた調査によると、農産物の供給先は地元中心、有機栽培による安全・安心の農業生産が行われている。この地域には、平和主義・環境志向の文化的伝統があり、新しい価値観をもった新規流入者の就農により野菜・ベリーや酪農・肉牛の有機農業、登山やスキーなど山村的な要素を備えた農村空間の商品化の実態が示されている。

第9章の対象は、8章よりも、さらに市場から遠く、気候条件に厳しい地域である。農業限界地というより、石油などの天然資源関連産業がこの地域では重要である。しかし、農業地域の類型では、穀物及び資料作物の栽培と大規模農業、機械化、借地農業地域に属する。農場数は漸減するが、農場規模は拡大傾向を示し、規模を大きくすることで収益性の課題を克服している。平均農場面積では州の4倍、飼料価値の高いアルファルファ栽培が中心で、キャノーラ、小麦が続く。肉牛飼育数は州の23%を占め、農場の54%が自己所有である。総農業収入は一貫して増加しているが、農業従事者年齢の高齢化問題もある。野菜の生産は困難であるが、16農場が存在する。ファーマーズ・マーケットなども盛んではない。この地域では天然資源、林業、歴史に関わる観光資源が多く、炭鉱跡や恐竜化石による世界的なジオパーク、チェーンソー彫刻、冬季スポーツ、アラスカハイウェイの0マイルポイントなどが主な資源である。農外収入に主に依存する兼業農家が多く、農村空間の商品化としては他地域とは大きく異なる。

第10章は最終章で、編著者・田林の単著であり、本書全体を整理・総括しているので、この章の論点と関連づけながら、本書への論評を示したい。日本国土の3倍近い、ブリティッシュコロンビア州の主要農業地域の農村空間の商品化に関する調査である。カナダの特性もあるが、普遍的な成果も明らかにされている。この州での「農村空間の商品化」は、地球環境の保全や食の安全を守るという高い理念と結びついている。その象徴は有機栽培であり、農産物の高付加価値化により、農業の収益性を高め、農業の安定化に貢献している。1例をあげれば、リンゴからブドウへの作物転換、さらにワイン生産や

ワイナリーの開設など、収益性を高めるための創意工夫、そのための知見が求められる。調査地域では、このような農業の構造変革が既存の農業者ではなく、世界からの移民、それも多彩な非農業職歴の新規就農者が担っていること、彼らとともに行政やメディア・観光会社など、地域が総力あげて農村の商品化を推し進めているカナダモデルが示され、新たな農村―都市共生システムが展望される。本書は、共同研究として大変よくまとめられている。しっかりとした現地調査に基づいており、説得力のある成果が得られたと高く評価したい。また、閉塞感の強い日本の農業・農村にとって大いに参考になる。

(ふじた なおはる 明治大学名誉教授)

The Annual Review of Canadian Studies
Le revue annuelle d'études canadiennes
KANADA KENKYU NENPO

2020

No. 40

Articles

- Okinawan Migration Processes in the Canadian Prairies
in the Early 20th Century..... Hironao Hanaki
The Role and Reality of the Orillia Asylum for Idiots
in the Late 19th Century Ontario Yuri Geshi

Book Reviews

- Akira Tabayashi, ed., *Kanada-ni-okeru Toshi—Noson Kyosei Sisutemu (Urban-rural Symbiotic Systems in Canada: The commodification of rural space and regional promotion)* (Agriculture and Forestry Statistics Publishing Inc.,2020)
.....Naoharu Fujita
Ruth Abbey, *Charles Taylor (Philosophy Now)* (London: Acumen, 2000)
trans. by Yoshiko Umekawa (The University of Nagoya Press, 2019)
..... Takashi Niwa
Mizuho Hasegawa, *Senju-Shosu-Minzoku no Gengo-hoji to Kyoiku (Language Retention and Education of Indigenous and Minority Peoples)*
(Akashi Shoten, 2020)Nobuhiro Kishigami
Masumi Izumi, *Nikkei Kanada-jin no Ido to Undo — Sirare-zaru Nihonjin no Ekkyo-seikatsu-shi (Japanese Canadian Movement)* (Takanashi Shobou, 2020)
..... Yuki Shimomura
Takamichi Mito, Taro Oishi, and Emi Ooka eds., *Sogo Kenkyu Kanada (Understanding Canada: An Interdisciplinary Approach)*
(Kwansei Gakuin University Press, 2020)..... Toshihiro Tanaka

Recent Publications on Canadian Studies in Japan

The Japanese Association for Canadian Studies
L'Association japonaise d'études canadiennes